

第一回 大分県観光振興財源検討会議

資料



日本一のおんせん県おおいた  みりよく 味力も満載

1 会議について

背景

- 大分県観光の更なる発展に向けた有識者会議（令和6年12月設置）
「さらなる観光需要の増加に対応するため、宿泊税等特定財源の検討」が提言
- 日本一のおんせん県おおいたのツーリズム戦略（2025～2027）（令和7年3月策定）
「観光地域づくりに必要な財源確保に向けて、宿泊税等特定財源の導入可否を含めた検討」を主な取組の一つに記載

大分県観光振興財源検討会議

<設置目的>

本県全体の観光振興にかかる施策を将来にわたり安定的に実施するための財源のあり方について検討すること

<所掌事務>

- （1）県全体の観光振興にかかる施策を安定的に実施するための新たな財源に関すること
- （2）その他、検討会議の目的達成に必要な事項に関すること

<設置期間>

令和7年5月28日～令和8年3月31日まで

第1回(R7年5月28日)

- 大分県の観光の現状について
- 大分県の観光施策の方向性について

第2回(R7年7月)

- 財政需要の積上げ
- 財源種別ごとの適否検討

第3回(R7年9月)

- 中間整理

第4回(R7年12月)

- 中間整理を踏まえた検討

第5回(R8年2月)

- 報告書まとめ

2 大分県の観光の現状

大分県のすがた

- 海と山に囲まれた地形、温泉、豊かな海の幸、山の幸等の魅力的な観光資源が多く存在することから「日本一のおんせん県おおいた 魅力も満載」というキャッチフレーズを掲げている。

九州における大分の位置
(九州の東の玄関口)



大分県 (14市3町1村)



宇佐：宇佐神宮



国東：両子寺



別府：別府八湯



大分：関あじ、関さば



日田：日田やきそば



九重・竹田：くじゅう連山



由布：観光辻馬車



佐伯：豊後二見ヶ浦

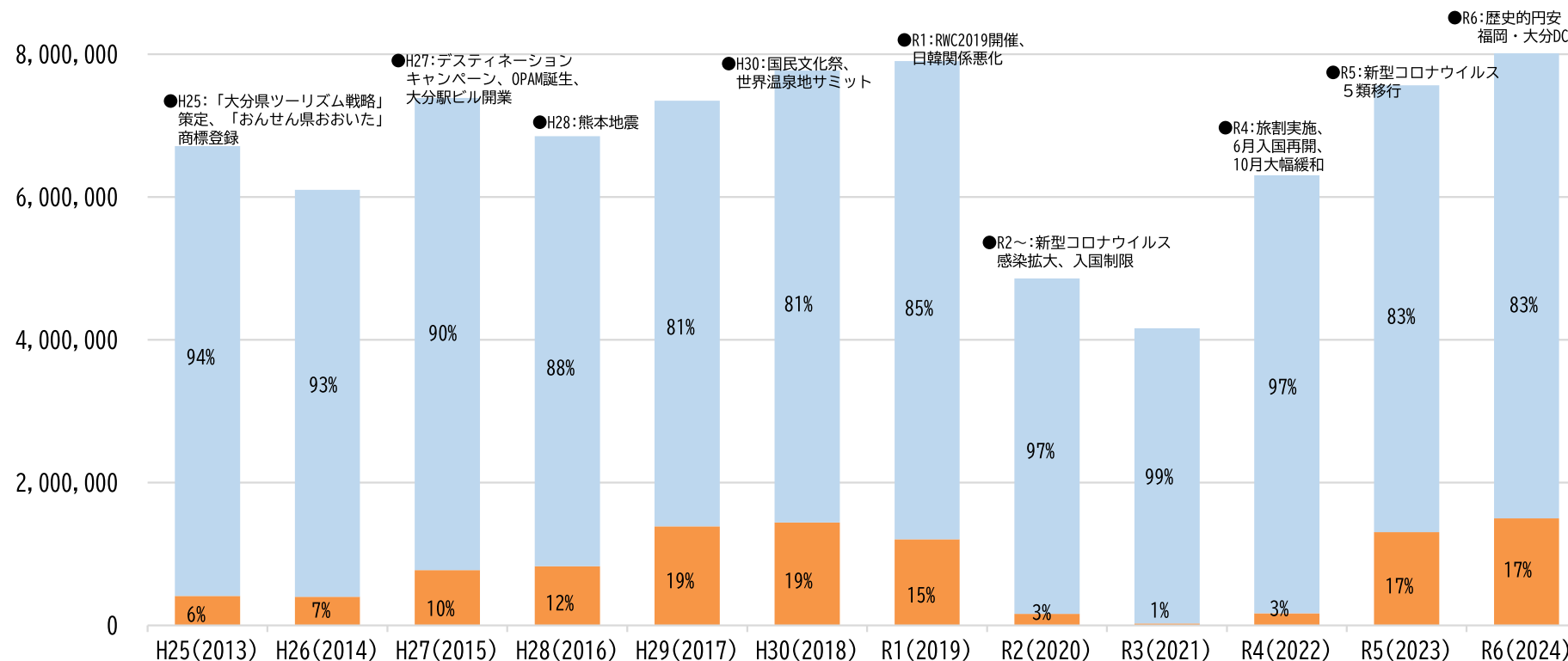


【大分県の特徴】

人口	1,086,116人 (R6.8.1現在 大分県人口推計参照)
面積	6,340.70㎡キロメートル (R3.1月現在 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村 別面積調」参照)
温泉	全国第1位：源泉総数 5,090本、湧出量 295,708リットル/分 (R5.3月末現在 環境省：令和4年度 温泉利用状況調査参照)
自然	海と山に囲まれた豊かな自然環境 県土の7割が森林、豊前海（干潟）、豊後水道（リアス式海岸）等変化に飛んだ海岸地形 トンネルの数日本一、中山間地を中心に標高0mから1,000m地点まで耕地が分布
食	海の幸（関あじ、関さば、ふぐ）・山の幸（和牛、鶏肉、酪農、しいたけ）・郷土料理（とり天、だんご汁）等
歴史・文化	国東半島の六郷満山文化（宇佐神宮含む）や国宝の臼杵石仏等

宿泊者数の推移

➤ R6年の宿泊者数は838万人、インバウンドも150万人弱、共に過去最高



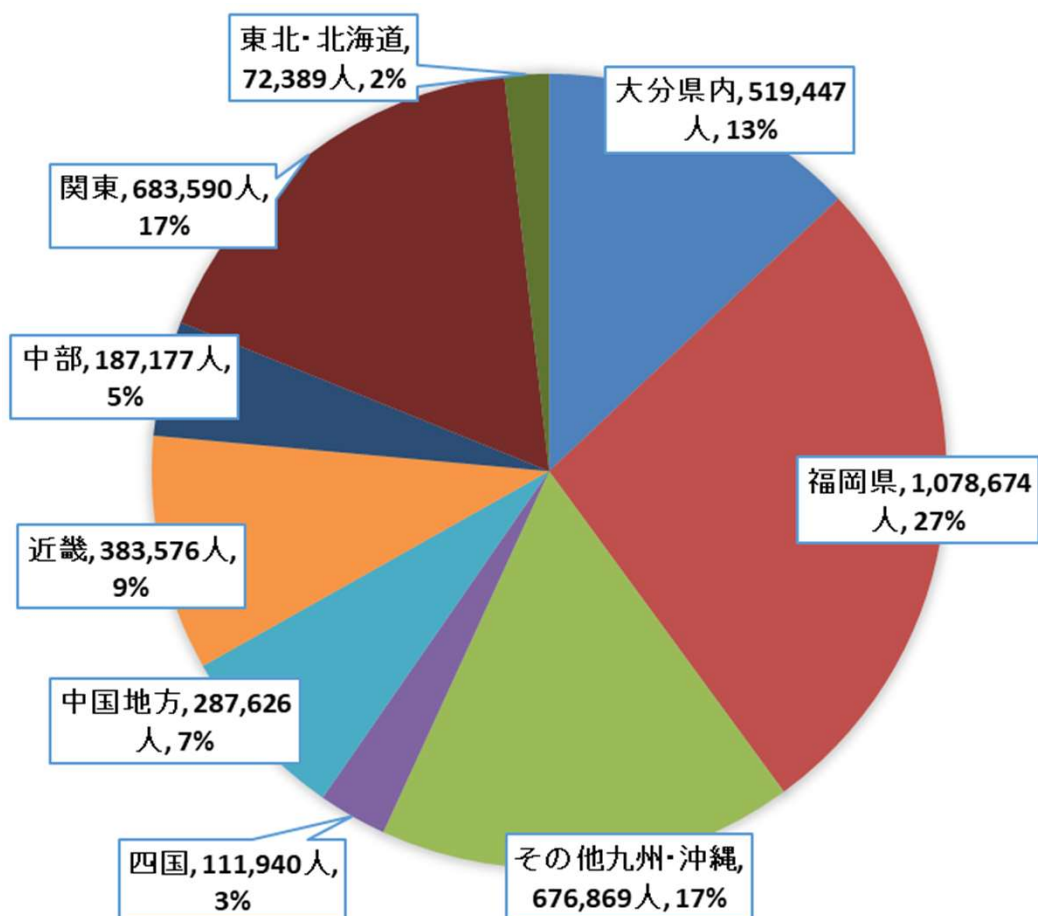
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
日本人延べ宿泊客数 (千人)		6,301	5,701	6,614	6,025	5,963	6,332	6,696	4,698	4,135	6,132	6,317	6,889
外国人延べ宿泊客数 (千人)		410	400	774	827	1,387	1,442	1,207	162	25	170	1,307	1,497
合計 (千人)		6,711	6,101	7,388	6,852	7,350	7,774	7,903	4,860	4,160	6,302	7,624	8,386

参考 (全国)	合計 (千人)	465,893	473,502	504,078	492,485	509,597	538,002	595,921	331,654	317,774	450,458	617,475	650,275
	全国順位	25	25	24	25	25	25	23	22	27	23	23	23
	外国人延べ宿泊客数 (千人)	33,496	44,825	65,615	69,389	79,691	94,275	115,656	20,345	4,317	16,503	117,751	163,599
	全国順位	17	18	16	16	12	14	16	18	22	12	13	17

発地別宿泊者数 ※県統計：従業員数10人以上

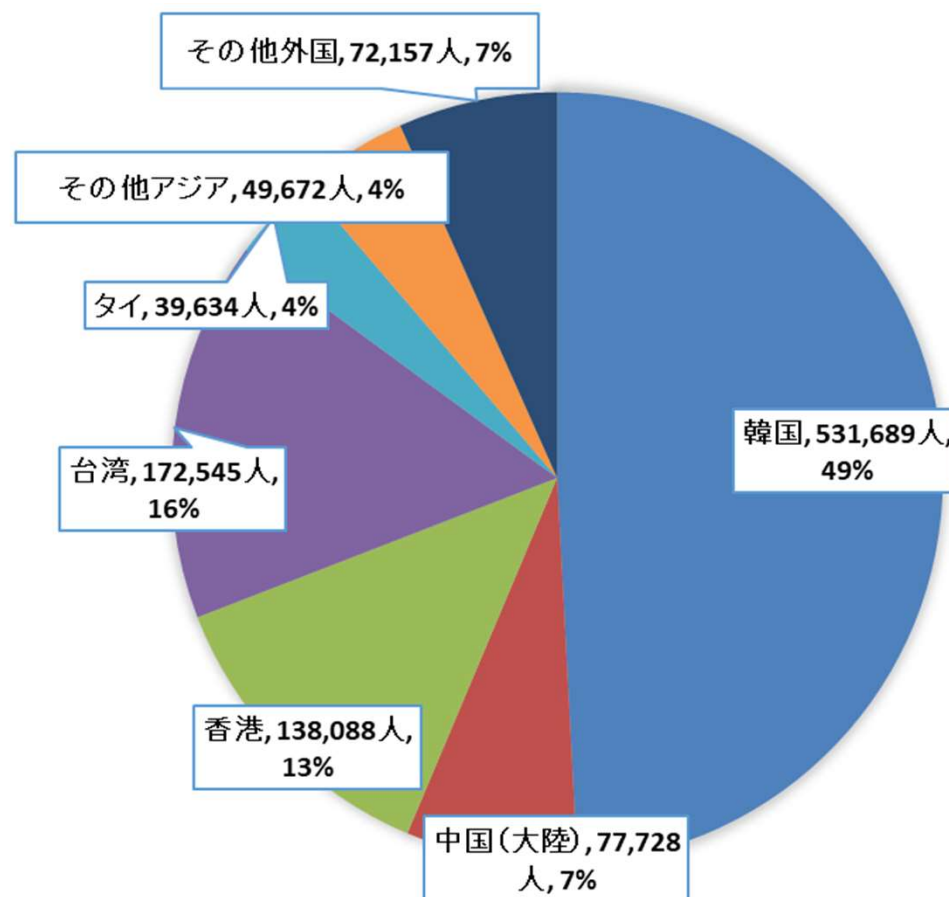
- 国内・・・半数以上が九州内、次いで関東、近畿、中国
- インバウンド・・・95%がアジア、半数が韓国、次いで台湾、香港

R6年 国内 ※速報値



国内小計：4,001,288人

R6年 外国 ※速報値

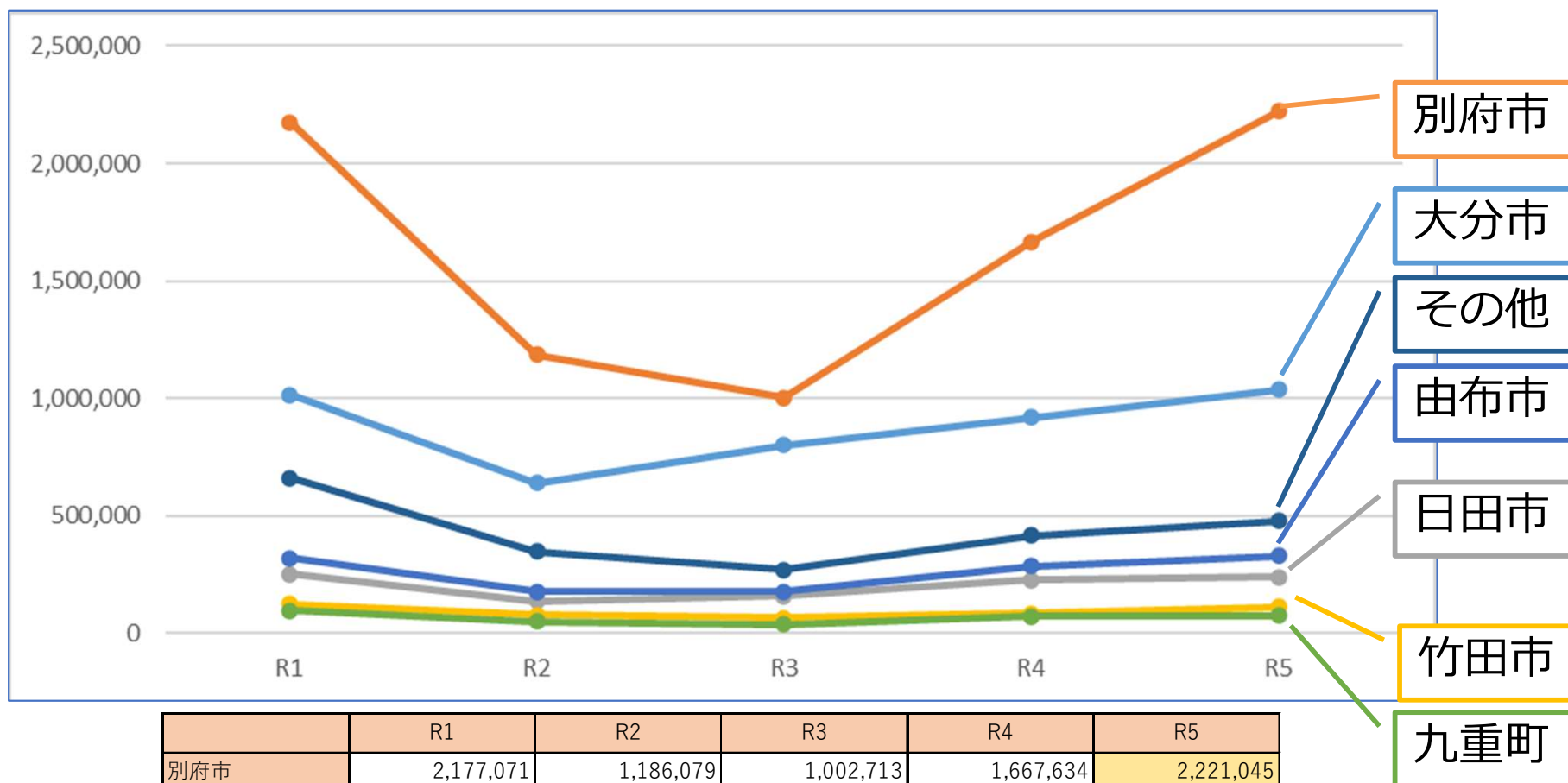


外国小計：1,081,513人

国内・外国合計 5,082,801人

地域別宿泊者数 ※県統計：従業員数10人以上

- 別府市、大分市、由布市で全体の約8割のシェア
- 上位3市はコロナ前の水準に回復。それ以外の地域では戻り切れていない状況



	R1	R2	R3	R4	R5
別府市	2,177,071	1,186,079	1,002,713	1,667,634	2,221,045
大分市	1,016,190	640,061	800,285	918,536	1,036,274
由布市	319,744	176,664	178,605	286,544	329,915
日田市	251,544	136,633	159,283	227,065	239,795
竹田市	125,091	77,901	67,122	84,113	112,945
九重町	97,991	50,315	39,965	73,997	74,780
その他	663,416	349,963	272,371	415,652	478,252
計	4,651,047	2,617,616	2,520,344	3,673,541	4,493,006

(注意点)
調査対象は、従業員数10人以上の県内宿泊施設

地域別宿泊施設の状況 (営業許可等)

- 別府市・由布市で全体の4割が集中
- 全体に占める簡易宿所（小規模旅館、民宿等）の割合が全国平均より比較的高い。

		施設数		種別内訳							
		X	県全体に 占める割合	旅館・ホテル	割合	簡易宿所	割合	下宿	割合	民泊 (住宅宿泊事業)	割合
				A	A/X	B	B/X	C	C/X	D	D/X
1	大分市	119	6%	94	79%	10	8%	7	6%	8	7%
2	別府市	419	20%	238	57%	132	32%	1	0%	48	11%
3	中津市	68	3%	37	54%	29	43%	0	0%	2	3%
4	日田市	128	6%	62	48%	60	47%	2	2%	4	3%
5	佐伯市	97	5%	36	37%	57	59%	1	1%	3	3%
6	臼杵市	106	5%	29	27%	75	71%	0	0%	2	2%
7	津久見市	13	1%	11	85%	2	15%	0	0%	0	0%
8	竹田市	107	5%	55	51%	50	47%	0	0%	2	2%
9	豊後高田市	80	4%	12	15%	68	85%	0	0%	0	0%
10	杵築市	52	2%	22	42%	26	50%	0	0%	4	8%
11	宇佐市	115	5%	18	16%	96	83%	0	0%	1	1%
12	豊後大野市	43	2%	13	30%	27	63%	0	0%	3	7%
13	由布市	443	21%	205	46%	222	50%	1	0%	15	3%
14	国東市	63	3%	18	29%	42	67%	0	0%	3	5%
15	姫島村	9	0%	5	56%	3	33%	0	0%	1	11%
16	日出町	20	1%	8	40%	11	55%	0	0%	1	5%
17	九重町	184	9%	114	62%	69	38%	0	0%	1	1%
18	玖珠町	48	2%	15	31%	32	67%	0	0%	1	2%
合計		2,114		992	47%	1,011	48%	12	1%	99	5%
参考：全国		93,475		51,038	55%	41,909	45%	528	1%	11,355	12%
(大分県割合)		2.3%		1.9%		2.4%		2.3%		0.9%	

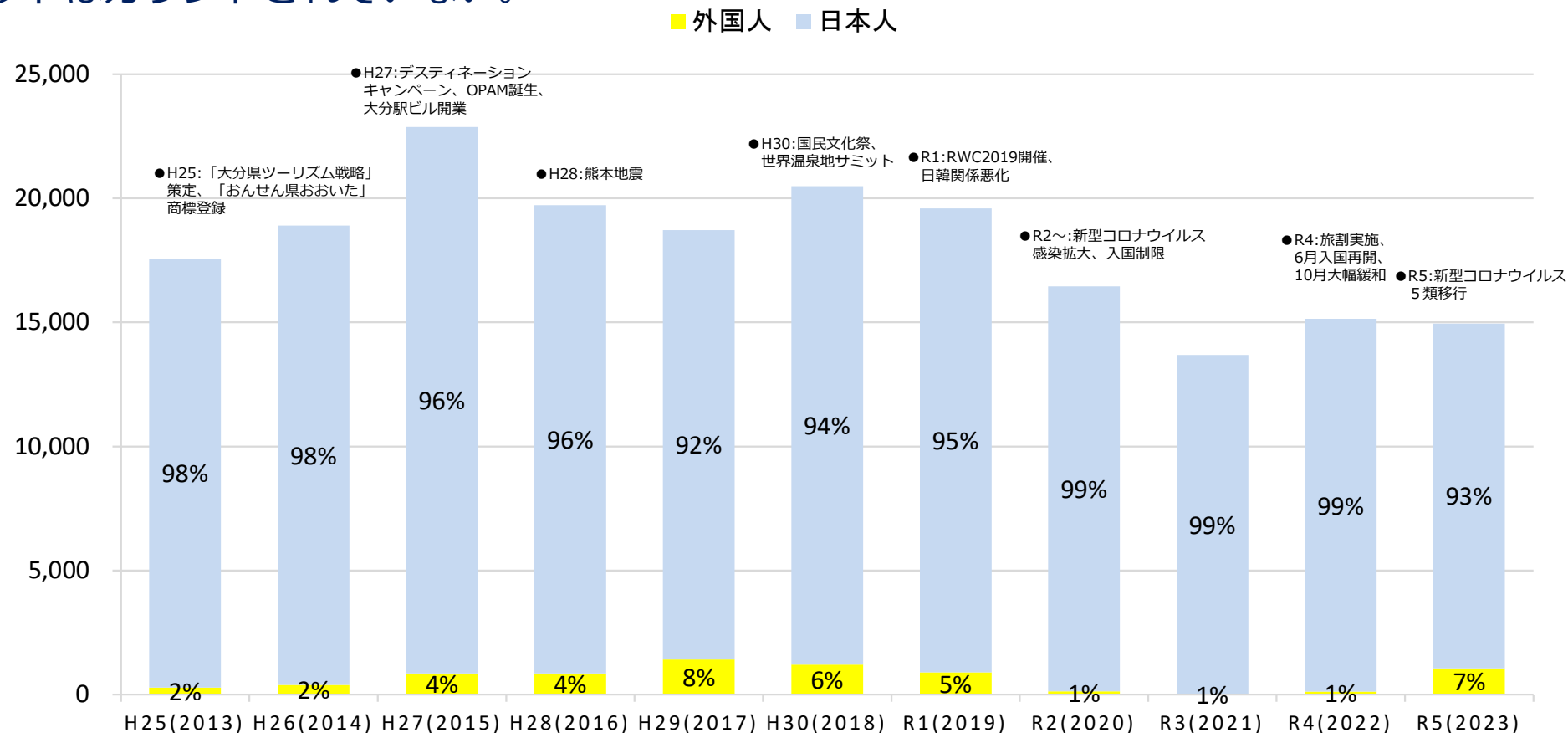
(出典) 旅館業台帳、住宅宿泊事業者台帳（大分県）R7.4.1時点（速報値）

旅館業許可施設一覧（大分市）R7.3.31時点

全国状況・・・令和5年度衛生行政報告例（厚生労働省）R6.3.31時点、住宅宿泊事業法に基づく届出及び登録の状況（国土交通省）R7.3.14時点

観光入込客数の推移

- 共通基準による観光入込客数
- 観光施設や拠点（道の駅等）での入込客数を足し上げており、湯の坪街道（由布市）等のスポットはカウントされていない。



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
日本人 計 (千人)	17,280	18,511	22,006	18,868	17,295	19,267	18,685	16,317	13,676	15,024	13,894
外国人 計 (千人)	283	393	863	853	1,424	1,213	900	136	11	125	1,058
合計 (千人)	17,563	18,904	22,869	19,721	18,720	20,480	19,585	16,453	13,687	15,149	14,952

(観光庁 共通基準による観光入込客統計) (単位: 千人)

日本のおんせん界おおいだ 味力も満

観光消費額 単位 百万円 棒グラフ

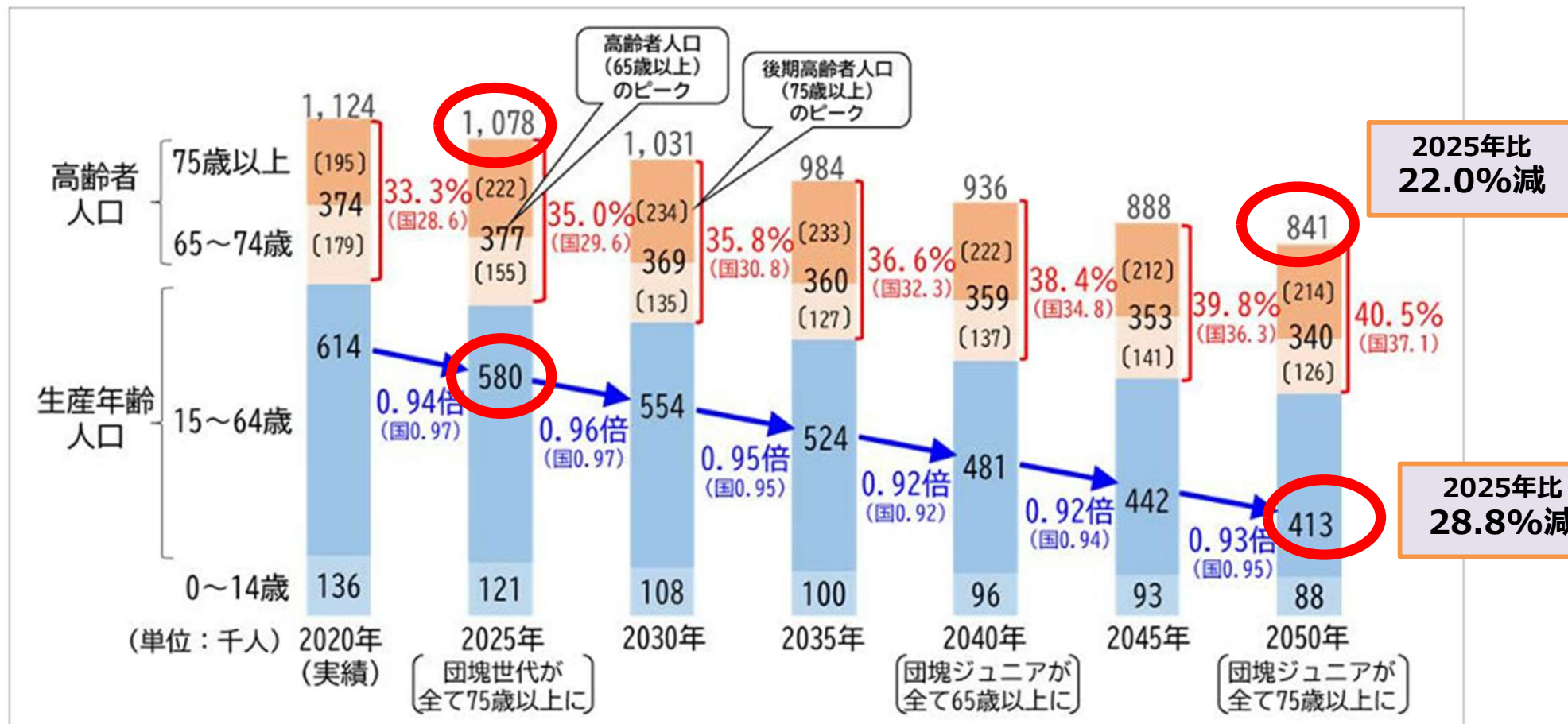


(観光庁 共通基準による観光入込客統計)

大分県の将来人口推計

- 2025→2050年で、県人口：約22%、生産年齢人口：約29%減少と推計

将来人口の見通し（県内の高齢者人口・生産年齢人口）



出典：日本の地域別将来推計人口 2023年推計（国立社会保障・人口問題研究所）を基に作成

参考

【県社会保障関係費の推計】

2024年当初予算：909億円 ⇒ 2040年推計：1,387億円

（国の社会保障公費負担割合の伸び率（対2018年度比 1.71倍）により試算）

【築30年以上の県有建築物】

2023年：65.1% ⇒ 2040年：94.3%（築60年以上経過：37.5%）

【建設後50年以上の県管理インフラ】

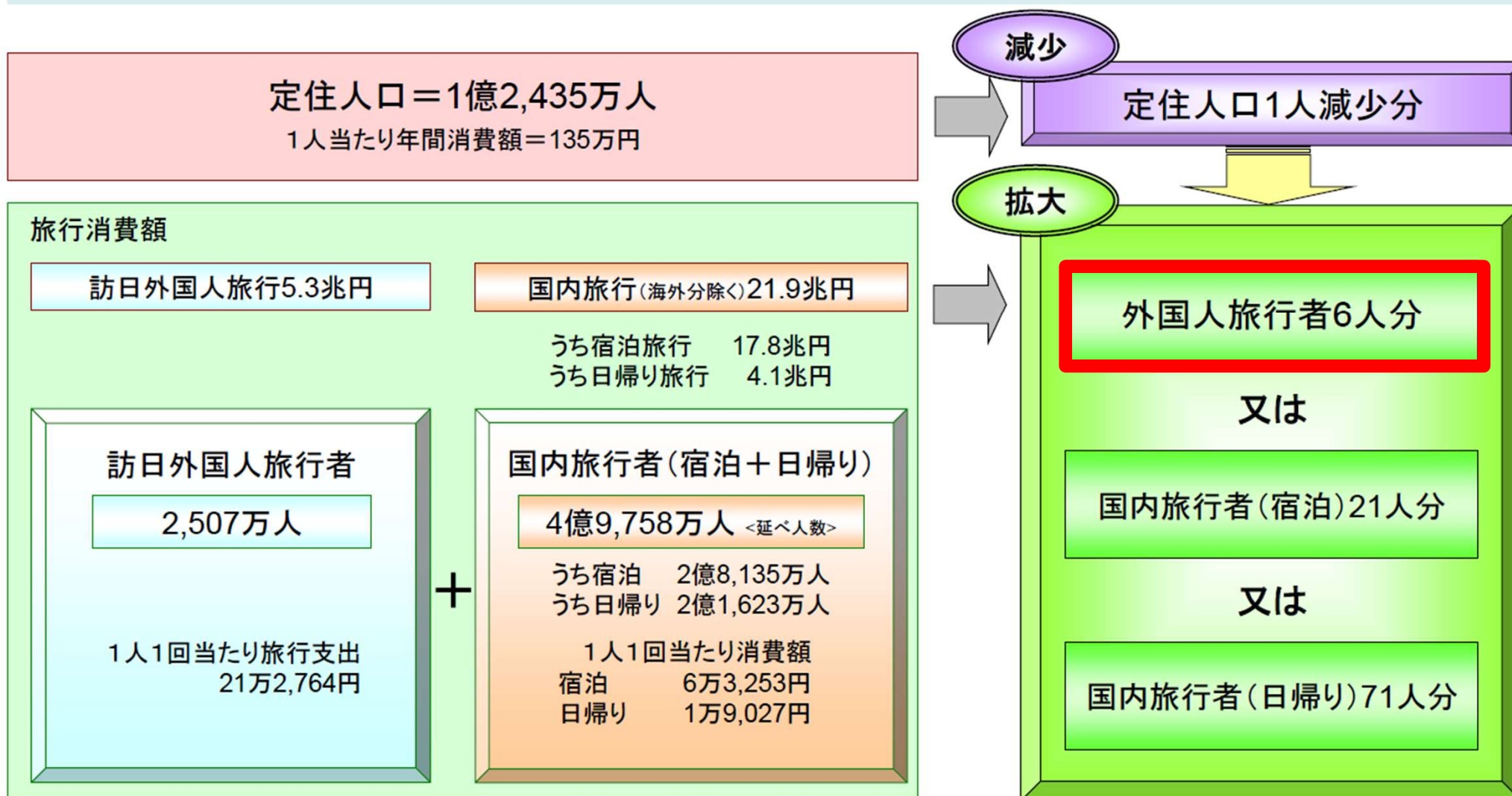
（橋梁） 2023年：44.2% ⇒ 2040年：69.4%

（トンネル） 2023年：33.7% ⇒ 2040年：60.9%

（港湾施設） 2023年：20.8% ⇒ 2040年：70.1%

観光交流人口増大の経済効果(2023年)

- 定住人口1人当たりの年間消費額（135万円）は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者6人分、国内旅行者（宿泊）21人分、国内旅行者（日帰り）71人分にあたる。



3 大分県の観光施策の 方向性について

日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略（2025～2027）

現状・課題

- コロナ後のインバウンド増等を契機とした持続可能な観光に対する関心の高まり
- 大型キャンペーンなどによる機運の高まり
- ◎魅力的な宿泊施設の数々
- △人口減少・少子高齢化、都市と地域の格差
- △観光関連事業者における人手不足
- △周遊促進に向けた交通環境の整備
- △観光消費額が低い

アドベンチャーツーリズム等、大分ならではの観光素材の磨き上げ

魅力的な宿泊施設に対する満足度：全国1位（3年度連続）

全国平均比 約▲1万円

推進指針

I 住んでよし、訪れてよしの経済・環境・社会における持続可能な観光地域づくり

地域住民、観光関連事業者、旅行者がそれぞれの立場から、地域資源を損なうことなく、現在から将来に引き継ぐための持続可能な観光地域づくりをとるにいきます。

II データマーケティングに基づく施策の展開

これまで行ってきたデータマーケティングの取組を強化し、施策立案、現状・課題分析、効果検証など、全てのプロセスにおいてデータを活用し、勘や経験ではなく、エビデンスに基づく施策の展開を行います。

<目指すべきすがた>

地域に誇りと愛着を持つことで、地域への観光による交流・経済メリットを理解し、快く旅行者を受け入れている。

おおいたならではの多様な魅力を堪能するため、繰り返し訪れるとともに、その魅力を将来に引き継ぐための責任感を持ち、旅行を楽しんでいる。



観光消費額の増加により、安定的な収益と雇用を確保し、観光産業が県経済を牽引する存在となっている。

多様な地域資源が尊重されるとともに、現在から将来に引き継ぐため、地域と旅行者がともに適正な利用を図っている。

<数値目標(令和9年)>



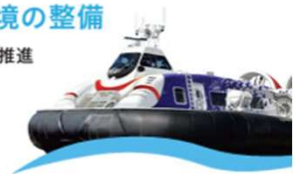
主な取組内容

1 地域と旅行者の相互理解による地域生活・環境・文化の構築

- (1) 地域住民と観光関連事業者が旅行者と共生する地域づくりの推進
- (2) 旅行者が意識や行動に責任を持つことで、より良い観光地形成を目指す取組の推進

2 多様化する旅行ニーズに対応する受入環境の整備

- (1) 誰もが安心して旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムの推進
- (2) 周遊に向けた交通環境の整備・周知
- (3) 災害や感染症などに対する観光危機管理体制の整備
- (4) 観光案内所等情報・交流拠点のネットワークの深化



3 人材の確保・育成を重視した地域経済の安定的な成長

- (1) 観光産業や観光地域づくりを担う人材の持続的な確保・育成
- (2) 観光産業の基盤強化



4 地域素材の磨き上げ

- (1) 魅力ある多様な温泉の活用と保護・適正利用の推進
- (2) 自然や歴史・文化、芸術、食等を活用した高付加価値コンテンツの造成、磨き上げ

5 “選択”と“集中”による戦略的な誘客

- (1) 経済効果の高いターゲットの選択と集中的な情報発信
- (2) 具体的なターゲットに焦点を当てた効果的な誘客施策の展開

6 県観光推進体制の強化

- (1) ツーリズムおおいたと県との連携強化
- (2) 地域とツーリズムおおいたとの連携強化



概 要

新たな「日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略」において、今年度から3年間を本県の観光地域づくりに向けた基盤を構築・強化する期間と位置付けており、そのための戦略内容の丁寧な説明（データマーケティングの強化、地域との連携強化、観光振興財源の検討等）を行い、推進体制づくりに向け対話を行う。

意見交換会を経て、県民をはじめ関係者が一丸となり、オールおおいたで取組を着実に進め、戦略に掲げる「住んでよし、訪れてよしの持続可能なおんせん県」の確立を目指す。

内 容

- 日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略（2025～2027）について
- 大分県観光の更なる発展に向けた有識者会議における検討結果について
- 意見交換

開催日程

- | | | | |
|---------|----------|-------------|------------|
| ・ 別府市会場 | 4月21日（月） | 10:00～11:30 | 別府市中央公民館 |
| ・ 日田市会場 | 4月22日（火） | 10:00～11:30 | 県日田総合庁舎 |
| ・ 由布市会場 | 4月23日（水） | 10:00～11:30 | ゆふいんラックホール |
| ・ 九重町会場 | 4月23日（木） | 13:30～15:00 | 九重町役場 |
| ・ 大分市会場 | 5月 8日（木） | 13:30～15:00 | 大分県庁 |
| ・ 佐伯市会場 | 5月 9日（金） | 10:00～11:30 | 県佐伯総合庁舎 |
| ・ 宇佐市会場 | 5月16日（金） | 14:00～15:30 | 県宇佐総合庁舎 |
| ・ 竹田市会場 | 5月21日（水） | 13:30～15:00 | 県竹田総合庁舎 |

参加人数
148名

日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略 2025-2027についての意見

分野	意見
1 相互理解による地域生活・環境・文化の構築 (1) 共生する地域づくり	- 選択と集中による誘客について。<u>オーバーツーリズム</u>。軽々に誘客という言葉がつかいづらい。無作為に受け入れた結果、圧迫されているという声。湯布院としては、<u>より消費単価の高い層をターゲットにしていきたい</u>。(由布市 宿泊事業者) - 簡易宿所について。泊まる客、めちゃくちゃごみをだす。掃除しない。オーナーは市外、県外にいて管理人がいない。(由布市 飲食関係) - 観光客が増えてきていることのメリットについて、直接かかわる観光事業者はわかりやすいが、<u>住んでいる方々が「レストランがいっぱいに入れない」など、自分たちの生活が、快適→不快に感じるゾーンが増えていくのは課題</u>と感じている。(竹田市 宿泊事業者)
1 (2) 旅行者が意識や行動に責任を持つ	湯の坪街道のポイ捨て問題。マナーだけでなく、その地域がどういうことを大切にしているというのを伝えてもらうことが大事。湯布院＝食べ歩きイメージ。地域の背景を伝えてもらうことを一緒にやってほしい。(由布市まちづくり観光局)

日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略 2025-2027についての意見

分野	意見
2 多様化する旅行ニーズに対応する受入環境の整備 (1) ユニバーサルツーリズムの推進	台湾、韓国からの観光客受け入れを進めている。口コミ等もあり、毎日のようにお客がきてくれている。田舎なので多くの人数が来ると、他に店がなく1店舗では限界。<u>外国人の積極的な受け入れを進める飲食店が地域で何軒も広がっていくといい。</u>（中津市（耶馬溪）飲食関係）
2 (2) 交通環境の整備・周知	<u>外国人観光客が増えすぎて、地元客がバスに乗れない</u>事態も。（別府市 宿泊事業者） 2次交通として別府市が「ライドシェア」の実証運行を始める。宿泊施設としてもタクシーの手配に困っている。県全体でも同様の課題を抱えていると思う。県でも取組んでもらいたい。（別府市 宿泊事業者） - ライドシェアについて。海外客はほとんどレンタカーを使ってきている。外国人を増やしていこうと思ったら交通環境の整備が重要。九重町のような田舎は環境が整っていない。<u>タクシーを呼んでもタクシーが来ない。</u>（九重町 宿泊事業者） - 中津は魅力的な自然の観光資源が特徴。アクセスの手段として、車が必須。レンタカーで国際免許は少ないと思う。<u>自動運転・ライドシェア等の交通インフラの普及が必要。</u>（中津市 飲食関係） - 長期滞在する欧米の方は、事前にきっちり行程を決めてくるのではなく、その日のマインドで行き先を決めている。行きたいと思ったときに行けるような交通網の整備は、行政の力が必要不可欠。<u>ライドシェアの「検討」と県は言うが、検討ではなく、具体的にスケジュールを示して、導入に向けて進めていってほしい。</u>（竹田市 宿泊事業者） - 久住のような山の中は、冬場はスタッドレス必須。しかしながら、インバウンド客等は、「九州は暖かい」と思っていて、ノーマルタイヤのレンタカーを福岡や鹿児島から借りて移動してくる。県の枠を超えるが、こういった情報を九州で共有してほしい。（竹田市 宿泊事業者）
2 (4) 情報・交流拠点のネットワークの深化	ガイド人材、通訳案内士を含め、県全体で一元管理し、連携できるような仕組みもあるとよいのではないか。（大分市 旅行会社）

分野	意見
3 人材の確保・育成を重視した地域経済の安定的な成長 (1) 人材の確保・育成	<観光地域づくり人材の育成> ・ <u>地域ごとに、その地域を愛する人、頑張っている人がいる。そういう人を発見してもらって、「おだてて」って欲しい。</u> (中津市 飲食関係) ・ 持続可能なまちづくりは、事業承継、跡取りの育成が重要。豊後大野では、観光関連事業者の若手グループを作り取り組んでいる。(豊後大野市観光協会) <確保> ・ <u>部屋は空いているが、スタッフ不足でお客の受入ができない。</u> (九重町 宿泊事業者) ・ 土日に親が子供を預けられる施設がなく、小さい子を持つ親は宿泊業で働くのが難しい。(由布市 民間事業者) <ガイド人材育成> ・ <u>アウトドアガイド(自然体験)だけでなく、大分の魅力的な文化・歴史に対応できるガイドの人材育成もよろしく願いたい。</u> (臼杵市 民間まちづくり団体)
3 (2) 観光産業の基盤強化	・ 小規模な旅館では、おばあちゃんが一人でやっているようなところもあり、ネット予約など、新しいことを覚えることがきつい。 <u>DX、実際にいる人たちが追いつかないのが実情。</u> (姫島村役場) ・ 県補助制度(上乗せ補助金)について、国の補助金の採択が条件になっているものがあるが、 <u>小規模な旅館では、観光庁の補助金の採択を受けるのはハードルが高い。</u> 小規模事業者でも対応できる制度があるとよい。(佐伯商工会議所)
4 地域素材の磨き上げ (2) 自然や歴史・文化	・ 県のインバウンドが過去最高と聞いても、どうしても別府湯布院以外の集客力・知名度で劣っている地方の宿泊事業者は他人事に聞こえてしまう。(九重町 宿泊事業者) ・ 温泉地以外の地域の魅力が磨き上がれば、温泉地で滞在する魅力のアップにもつながる。(別府市 宿泊事業者) ・ <u>平日はビジネス客で埋まるビジネスホテル。土日の稼働が課題。県南の観光地と連携するなどして観光需要も取り込んでいきたい。</u> (大分市 宿泊事業者) ・ <u>アドベンチャーツーリズム、自然体験がメインになるのは仕方ないが、文化・体験の要素も研修に入れていただきたい。</u> (臼杵市 民間まちづくり団体) ・ 事業者自ら発信することが大事。(中津市 飲食関係)

分野	意見
4 地域素材の磨き上げ (2) 自然や歴史・文化 続き	・ コト消費・体験を繋ぐ取り組みが重要（大分市 民間事業者） ・ サイクルツーリズムについて、大分県はものすごく資源が豊富とサイクリストから聞く。既存のサイクルルートは、行政区管内で完結させてしまうところばかり。県外からくる人にとっては行政区の区切りは関係がないので、県が旗を振って取り組んでほしい。（大分市 自転車販売） ・ 個別のコンテンツを磨くのもいいが、観光客は行政区の境を気にして動いていない。コンテンツを広域で繋ぐことが重要だ。（大分市 民間事業者）
5 “選択”と“集中”による戦略的な誘客	・ 竹田市が来訪先として選ばれている理由は、阿蘇、高千穂、別府へのアクセスの良さ。それ以上の理由で選ばれるのは難しい。観光客、特に富裕層が自分たちが旅をする＝お金、時間）を投資する意味・価値の言語化が必要。そういったことを地域ごとに意見交換できる場があるといい。（竹田市 宿泊事業者） ・ データマーケティングについて、地域の交通データなど、民間事業者が有効に使えるデータの集積をお願いしたい。（竹田市 道の駅運営事業者）
6 県観光推進体制の強化	・ ツーリズムおおいた（TO）にいい人材を。TOで大分の観光をやるために帰ってきたいと思えるような組織にしてほしい（別府市 宿泊事業者） ・ マーケティングとマネジメントの2トップだと、実行が伴わず頭でっかちな組織にならないか不安。「誘客」の部分にもトップ、プロパーの職員を据えた方がいいのではないか。（3トップ体制）（日田市観光協会） ・ 宿泊者数の統計について。現在、県も市も施設に直接照会をかける取り方をしている。自動で吸い上げられる仕組みにならないか。（日田市役所） ・ DMP構築について、県がやっていただくのはありがたい話。構築の前に、しっかり全市町村に細かく、何が必要なのか、丁寧なヒアリングをしていただきたい。構築したあとの改善もできるようなものとしていただきたい。（日田市観光協会） ・ アンケートについて、市町村・県・国がそれぞれ実施している状況。県と市町村の分だけでも実施時期を調整するなど、連携をとりたい。（観光まちづくり佐伯）

大分県観光の更なる発展に向けた有識者会議についての意見

分野	意見
ツーリズムおおい	・ ツーリズムおおい (TO) にいい人材を。 TOで大分の観光をやるために帰ってきたいと思えるような組織にしてほしい (別府市 宿泊事業者) <再掲> ・ マーケティングとマネジメントの2トップだと、実行が伴わず頭でっかちな組織にならないか不安。 「誘客」の部分にもトップ、プロパーの職員を据えた方がいいのではないか。 (3トップ体制) (日田市観光協会) <再掲>
観光振興財源 (宿泊税等)	<検討について> ・ 観光財源は「訪れる方の視点」で考えていただきたい。 観光に訪れた方が恩恵を享受する一環としての取り組み。 (竹田市 宿泊事業者) ・ 日田は日田温泉、天ヶ瀬温泉はじめ、温泉地・宿泊先が小さいものも含めて点在。同じ西部地域では、九重町も温泉地が多数存在。導入するとなったら、きめ細かに意見を聞いてほしい。 ・ 観光財源として代表的な宿泊税は、日帰り客からの負担はどうするかの課題。国内・世界では、入山料や二重価格などの例も。 (竹田市 宿泊事業者) ・ 福岡に泊まり、日帰りでバスで観光に来るお客もいる。宿泊税の場合、宿泊する方だけが負担するのはどうなのだろう。日帰り客も負担する仕組みはできないか。 (由布市 宿泊事業者) ・ 地方の温泉地では、料金を千円などちょっと上げるとお客が来なくなる実情。 消費税を下げようとする国民感情がある中で、宿泊税はすごくデリケートな問題になるのではないかと。国内の人にとっては、宿泊税は外国人から取るべきだという考えを持つ方も。あまり「宿泊税ありき」に寄り過ぎないように、しっかりと考えていかないといけない。 (別府市 宿泊事業者) ・ 宿泊税を「オーバーツーリズムによる影響を緩和するためにやる」ならいいと思う。 (中津市 飲食関係)

分野	意見
観光振興財源（宿泊税等）	<必要性> ・ 宿泊税のような仕組みは必要だと思う。観光にかかる費用が町村では少なくなっていくと思う。（九重町 宿泊事業者） ・ 宿泊税の徴収は県全体でやる方が統一感あるし、混乱も来さないと思う。一方、税金の使い道で、地域の事業者に応じたメリットが見えてくるか、具体的に示していただきたい。（九重町 宿泊事業者） <使途> ・ 杵築市と話をする機会あり。宿泊施設が少ない地域は観光の予算確保が厳しいと実感している。新たな財源を導入する場合、各地域と連携し、徴収した税金がうまく県内で回るのが大事。（別府市 宿泊事業者） ・ 特別徴収義務者となる宿泊事業者の立場からすると、「観光のために使われる。他の用途には使わない。」ということでない、なかなか理解は得られないと思う。また、単純に、今までやっていた観光事業の財源が振替わるだけだったり、ツーリズムおおいたの人件費に充当するなどでは難しいのではないかと。（日田温泉旅館組合） ・ 宿泊税導入は使途が重要。すでに導入されている入湯税は、宿泊施設に直接的に恩恵がないもの。日田市の入湯税の使い道の多くは浄化センターの排水処理。（日田市 宿泊事業者） ・ 宿泊税でとられた財源は、観光のことに必ず使ってもらいたい。他のものに使われないようにしてほしい。（九重町 宿泊事業者） ・ 税の使い道として、民業を圧迫するような事業をされると困る。（日田市 タクシー事業者） ・ 個別のコンテンツを磨くのもいいが、観光客は行政区の境を気にして動いていない。コンテンツを広域で繋ぐことが重要だ。そういう意味では、宿泊税は県全体で導入し、県が使った方がいいのではないかと。（大分市 民間事業者）

分野	意見
観光振興財源（宿泊税等）	<宿泊客への説明> - 九州の中でも導入しているのが現状福岡県と長崎市で、宿泊客によっては認知していないことも想定。 県全体で入れる場合は、県から強く周知してもらったほうが、宿泊施設としては説明しやすい。（九重町 宿泊事業者） 特別徴収義務者として、お客様に2つの税金（入湯税、宿泊税）を説明するとなると現場は大変。別府市に1本化できないかきいたが、国まで確認して最終的に「できない」という回答であったが、なんとかいい方法はないかと思っている。（別府市 宿泊事業者） - お客様の立場からは、入湯税、宿泊税の2つが取られることになる。なぜダブルでとるのかの説明はしっかりしていただきたい。（大分市 宿泊事業者） <フリーライド問題> - 由布市内には温泉旅館が250施設。アパートの一室を宿にしたような簡易宿所は300施設ほど存在。簡易宿所に泊まる客からは入湯税は徴収しておらず、フリーライド問題が発生。（由布市 宿泊事業者） <その他> - 玖珠町、飲食店は結構あるが、宿泊が弱い。九重町には宿泊施設が多く、玖珠としては連携して一緒に受け入れるのがいいかと思っているところ。その場合、宿泊税の割り振られる割合はどうなるかは心配。配慮いただけるとありがたい。（玖珠町観光協会）

新たに必要となる観光振興施策について

➤ 更なる発展に向け、既存の県施策では対応できていない課題が散見

戦略	課題	施策（例）
1 地域と旅行者の相互理解による地域生活・環境・文化の構築	地域住民と旅行者の共生	・ レスポンシブルツーリズムの推進
2 多様化する旅行ニーズに対応する受入環境の整備	ユニバーサルツーリズム	・ 子ども、高齢者、障がい者、ペット連れ客等が観光しやすい環境づくり
	周遊に向けた交通環境の整備・周知	・ 空港アクセス、広域交通の拡充 ・ ライドシェア、デマンド交通の普及推進
	受入環境の整備	・ 多言語、ピクトグラム表示の推進 ・ 免税の対応 ・ 情報通信環境の整備
	観光危機管理体制	・ 観光危機管理計画策定 ・ 風評被害対策 ・ BCP策定支援 等
3 人材の確保・育成を重視した地域経済の安定的な成長	人材確保・活用	・ 外国人、高齢者、障がい者等の多様な人材活用の推進
	DX・デジタル化	・ 宿泊施設のDX支援 ・ キャッシュレス推進 ・ 各観光施設でのデジタル化対応
4 地域素材の磨き上げ	県内周遊の促進、周辺部への送客	・ 富裕層向けの高付加価値コンテンツの造成・磨き上げ ・ 県内周遊の促進、広域連携、観光案内所等のネットワーク化
5 “選択”と“集中”による戦略的な誘客	魅力発信の強化	・ データマーケティングに基づく選択と集中の魅力発信
	マーケティング機能の強化	・ 県域レベルのマーケティング機能の強化 ・ マーケティング人材の確保・育成
6 観光推進体制の強化	推進体制の強化	・ 各DMOのマーケティング、マネジメント機能の強化 ・ 各主体の連携強化